

環境管理新システム

二酸化炭素、廃棄物など削減

「E.A.（エコアタラシイ）21」に関心高まる

4社が初登録 中小企業負担軽く

新しい環境マネジメントシステム「エコアタラシイ」が、県内で注目を集めている。環境管理の国際規格ISO14001の中小企業版といわれ、県産業廃棄物協会が14日開いた会員向けの説明会には加盟240社中、約90社が出席。武田全弘会長は「環境の世紀に生き残るために重要」と登録を呼びかけた。先月31日には自動車整備業の4社が県内で初めて登録しており、広



がり期待されている。E.A.21は96年に環境庁（現環境省）が策定。04年3月に全面改訂し、同年10月から認証・登録制度がスタートした。制度は環境省の外郭団体「地球環境戦略研究機関（IGES）」持続性センターが運営し、先月末までに全国で約730組織が登録している。認証には、二酸化炭素、廃棄物、水使用量を確実に削減する仕組みの構築が必要。中小企業や学校、

公共機関などの団体が対象で、これらの見直しも長期的なコスト削減にもつながるといふ。取得費用は、規模や業種によって違ふが、10万〜30万円程度。コンサルティング料を含めても50万円ほどと、ISOの3分の1〜10分の1で済む。県内では、和歌山市が昨年11月、同センターが公募して全国18自治体が参加した「自治体イニシアティブ・プログラム」を実施。E.A.21の登録・認証を促進するため、昨年11月から今年3月まで毎月1回、講習会などを開いた。参加した30団体のうち、十数団体が申請する予定。

また、昨年9月にはセンターの出先機関「エコアクション21地域事務局わかやま」（和歌山市）が設置された。同事務局にも数団体が申請しており、市のプログラムに参加した団体を含めて、今秋には県内の登録団体は20程度になる見込み。

一方、神奈川県や大阪市など、E.A.21登録業者を入札で優遇する自治体も増加。同事務局は一県一市に、入札の優遇や条例制定を働きかけた」としている。

産業廃棄物業者は昨年4月、優長性の評価制度「が設けられ、提出書類の一部免除などの優遇措置が受けられるようになった。評価に際して審査される順法性、情報公開、環境保全の3要素のうち、環境に関してはISOかE.A.21の取得が要

【辻加奈子】